



秋田県立支援学校天王みどり学園 研究だより NO.6
平成28年9月21日 発行

ippo(いっぽ)

【研究主題】 キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成
～学部間をつなぐ仕組みを活かした取組～

高2・3のワーキンググループに、今年度は実習先事業所の方々に加わっていただく授業参観の2回目を9月5日に実施しました。参加者は、就労支援センターこまちの保坂淳氏、秋田障害者職業センターの石井正博氏です。感想や御意見を紹介します。

Q. 将来の社会生活に向け、在学中の生活で重視すべきポイントや学部間のつながりをどのように考えますか？

【小学部～中学部】

- ・ 生活習慣の課題改善には時間が掛かるため、この時期から指導していけると良いと感じた。

【中学部～高等部】

- ・ 人との関わりの中で、自分の課題と長所の自己理解につなげることが大切だと感じた。
- ・ 興味のある仕事を考える。

【高等部～社会】

- ・ 先輩へのインタビューは、社会（働くこと）を身近に感じ、日々のモチベーションにもつながるように感じた。
- ・ 自分から質問できる。
- ・ 自分から挨拶ができる。

また、卒業後の生活に向けて、特に重要と考えるものを、実習評価票の項目から選んでもらいました。卒業後の生活スタイルによって違いはあると思われませんが、共通していたのが◎の項目です。

●社会性・態度・作業の理解・習慣に関すること●

言葉遣い	◎生活リズム	◎身だしなみ	健康管理	◎挨拶
返事	◎謝罪	お礼	報告・連絡	◎質問・相談
意思表示	意欲	協調性	時間の厳守	安全管理

あえて強調されたのは、基本的な生活習慣であり、日々の積み重ねが大事なことばかりです。「謝罪」については、失敗することもある、失敗したことを認める、失敗しても立て直そうとするといった、肯定的な考え方を身に付けていくことが必要となると思います。また、他者と友好的に関わる上でも、素直に謝るスキルが必要となります。また「質問・相談」については、スキルだけでなく、分からないことはダメなことではない(得意・不得意)、分からないままにしない、何が分からないのかが分かるといった、正しい自己理解が必要となると思います。

●作業遂行能力・作業態度に関すること●

緻密性	正確性	効率性	生産性	◎ <u>持久力</u>
◎ <u>忍耐力</u>	判断力	作業能力の認知	障害の認知	耐ストレス性
耐プレッシャー性				

こちらでは、「持久力」「忍耐力」が強調されていました。学校生活で考えてみると、継続して活動したり働いたりする体力や情緒の安定が必要となると思います。作業学習だけで身に付けられるものではありません。日頃から、将来の生活につながっていく意識をもちながら指導を積み重ねていきたいものです。

各学部の授業参観では次のような感想をいただきました。

【小学部について】

- ・話を聞く姿勢や、発表等の取組は、社会に出ていく上での、人との関わり方につながっていくと思った。

【中学部について】

- ・生徒同士の話し合いの場があることは良いと思う。
- ・話し合い活動は、「自分で考える」「他者の意見を聞く」という点で、働く上でとても大切なことだと感じた。

【高等部について】

働いている卒業生を招いての授業について

- ・社会人として働いている先輩へのインタビューは、生徒にとって働くイメージがつきやすく（今から準備できることなども）、とても良いと感じた。

実習の自己評価票を作成する授業について

- ・自己評価票の記入は、職業センターでも類似のことをやっている。既にやっているかもしれないが、同じ項目を事業所の方に付けていただくと、自信や課題の具体化につながるように感じた。
- ・自分を評価することは良いこと。

高等部を中心に授業参観をしていただいておりますが、ほとんどの意見が、キャリア教育全体計画の「学部における目指す姿」の内容とリンクしています。卒業後の自立と社会参加の観点から、再度、キャリア教育全体計画に目を通してみてください。「社会⇒高等部⇒中学部⇒小学部」で育てたい力が考えやすくなるのではないのでしょうか。



2回目の参観の様子

